

治水利水も含めた河川環境理解のための川下り合宿

報 告 書



2007年11月

NPO法人 流域調整室
子どもゆめ基金助成事業

はじめに

河川や水環境に関する知識の啓蒙や情報発信、調査研究や政策提言の事業を行うことにより、おもに木津川流域の子どもが、河川および流域の環境の成り立ちと現状を理解し、河川および流域の環境向上について具体的提案ができる知識と行動力を身につけられることと、河川流域のまちづくりのために寄与することを目的に、2003年1月19日、特定非営利活動法人 流域調整室は設立総会を開催した。

NPO法人 流域調整室では、子どもゆめ基金の助成を受けて、地元の川に蛍を戻すにはどうすれば良いのかを学べる蛍見学会や、流れの作用を知るための流れ橋模型の流出実験や、木津川の葦を利用する方法を探るための葦刈などを、子どもたちの参加を募集し、地元の人たちの協力を得て行い、スタッフともども、いろいろ勉強してきた。

2006年より、事務所を移転し、定款を改正して「河川流域防災避難システム」や「葦や竹などの流域素材の利用による地域経済活性化」と事業に加え、学術研究を明文化し、役員の一部も交代し、再出発することになった。

2006年より、笠置の水辺の楽校の立ち上げ準備に関わるようになり、カヌー川下り中に間伐材魚道を設置して遡上観察しようという提案が、水夢きっずアイデア賞に選ばれたりした。

本報告書は、NPO法人 流域調整室で再開された治水利水も含めた河川環境理解のための川下り合宿について、募集や活動の記録をとりまとめ、内外の参考に資するものである。

昨年は子どもゆめ基金などの助成が得られず、今年やっとカヌーを用いた川下り合宿を再開し、法人の再出発を賭けた行事であった。夕立の他は、天候にも恵まれ、スタッフの協力により、これまでにない多数の参加者を得ることができ、参加者・スタッフとも身体には事故が無く終えることができた（メガネ等持ち物や備品の紛失はあった）。ただ、時間的に余裕が無かったこと、スタッフが子供の面倒を見るのに素人過ぎて手探りであったという課題は残った。

以下、活動目的、募集の状況、活動記録、反省文、参加者を含めた反省会の報告をとりまとめる。

1. 活動の趣旨(目的・特色・期待される効果など)

ハザードマップや水源・発電・農産物の示されたチラシ・ポスターで募集したカヌー合宿で、水害・水泳体験の話や、活動中のヒヤリハットから治水を、魚道設計の話から利水を、生態を含め人間生活と関わる河川環境として理解することができる。

2. 募集～行事当日に至るまでの状況

4月5日 木津川笠置～八幡間で、魚道を設置するにふさわしい落差のある本川との合流点を探るため、和束川や笠置の横川を含めて調査、聞き込みを行った。

和束川の上流には、京都府によって整備された親水公園や、釣り場もあったが、釣り場はプロ級の人を対象であった。下流部には魚道が必要な仁丹工場跡の落差工もあったが、木津川を川下りして入れて入れるような位置ではなく、教育用の木製魚道で遡上観察ができるような落差ではなかった。

横川では毎年7月に笠置の幼児や小学生を対象にした魚つかみ取りなどの「ちびっこ祭り」行事が開催されており、木津川から落差工が2つ連続しているが、笠置大橋より上流にあること、ちびっこ祭りの対象になる年齢の子供は川の紙芝居には集中しないのではと言われ、計画を変更した。

5月30日 川下り合宿の詳細日程を決め、教育委員会後援や講師の依頼を確定した。

時間的に詰めていくことにより、川下り区間を笠置～木津泉橋間と決定した。また、川下りの練習時間や他の行事に支障なく魚道の観察ができる低い落差工が白砂川の木津川合流点付近にあると聞いたこと、間伐材魚道は別の助成金で今年度は製作の予算がつかなかったため、簡易な魚道をテント設営地付近の白砂川落差工に設置する計画とした。

カヌー広場整備は笠置町を通じて「水辺の楽校」として国交省木津川上流河川事務所と協議中であり竹蛇籠は見合わせた。

6月16日・25日 木津川笠置～八幡間におけるハザードマップ、水道水源、発電、森林資源、農産物、魚道や河川敷利用などを調べ、ポスターやチラシのデザインを確定し、印刷、配布を手配した。

木津川の笠置～八幡間の沿江市・町及びスタッフの居住する奈良や交野で、図書館・公民館・生協・運動施設に手分けしてポスター・教育会館にチラシを配布して募集した。メールで参加申し込みされた松村さんがお知り合いを誘って下さったり、スタッフの関川さんが地元の小学校や自治会にも配布して下さいました。

京都新聞や、マイライフ、ハーフタイムといったタウン誌にも載せてもらうことができた。募集ポスターや、新聞掲載状況を次ページ以降に示す。

7月27日 笠置、加茂、木津の現地で最終打合せを行い、紙芝居の予行演習をし、雨天時の代替計画（増水時中止の水位基準、2日目に室内で川の話をするなど）を決定した。

河川情報センター<http://www.river.go.jp> もしくは

携帯サイト<http://i.river.go.jp>

の水位が加茂量水標で-1.4m以上になったら中止とし、2日目のみ水位が高ければ開橋の流域待機センターで生態の話などをしてもらうことにした。

7月31日 銭司生態観察地点の現地で、カヌー川下りと陸上班、谷講師の乗り入れについて最終打合せを行った。

銭司警報所の近くで、細い水路を経て洲になっていた。

2. 行事当日の活動状況

8月7日

10:00 笠置駅・笠置大橋上流付近に集合、受付・説明、
「これだけは守ってください」配布

10:30 カヌー練習

初めての参加者が殆どで、パドルの持ち方から教えてもらったよ。→

12:30 昼食

河原に動物の死体でも流れ着いていたのか？という異臭があった。



13:00 井上隆司さんの川の紙芝居・井手町の小川俊雄さんの水害の話 (1953年山城水害)
川のなりたち、流域の概念、川のめぐみや洪水の話など、興味深く聞きました。↓
天井川の氾濫で必死で高台に逃げた話は、怖かったよ。↓
(夕立ではこの裏に避難した)



14:00 白砂川で水質調査・魚道紹介
木津高校 化学クラブ顧問 山田信人先生から↓
同じ日の午前の白砂川データは、以下のようです。

COD	7	ppm
亜硝酸性窒素	0.01	ppm
アンモニア性窒素	0.1	ppm
pH	7.7	
水温	31℃	気温 27℃



注意…午後には、気温・水温は大きく変化していると思います。

今年の企画は、時間のゆとりもなく、場所も適当とはいえないところで実

施となりましたが、これから継続するのであれば、もう少しゆとりのある企画にされたらと思います。（夕立で、午後からのデータは紛失してしまいました）

水を汲むときは、ペットボトルに川の水を入れて「とも洗い」する、計測までに適切な時間を待つことなど、教えてもらいました。

こんなにたくさん人がいたら、
特製魚道にも魚が上らないよ・・・
下流入り口に入りやすい仕掛けが必要？



15:00～カヌー練習

作ってくださった藤田さん↓

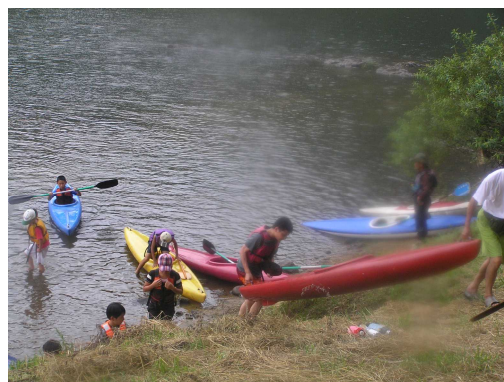


遊泳禁止のところにも来れたよ↓



16:00 夕立によりカヌー練習中止、

魚とり・流速測定・魚道遡上観察・
木津川で泳いだ話中止



入浴、夕食作り・食事・片付け・テント設営、就寝
 ↓ 関川さん提案のシーフードカレーすきっ腹にはおいしい
 子どもは子どもたちのテントで大喜び



杉本さんの指導で、慣れた
 手つきで漬物づくり

8月8日 6:00 起床、朝食作り・食事・片付け、 ↑
 車で来た大人は車を木津に回送、昼食準備

9:00 笠置大橋上流付近で生態観察指導

谷幸三先生から：

8月8日(水)の生物の記録は野帳にメモしていましたので、以下に報告しておきます。

s t .1：笠置大橋の上流、午前9時45分で気温 31℃、水温 27℃

カワニナ・テナガエビ・ハグロトンボ（成虫）・コヤマトトンボ（幼虫）・

シオカラトンボ（成虫）・アメンボ・ヒラタドロムシ・コイを確認。

ミンミンゼミが鳴いていた。

生物による水質判定は少し汚れ水になった。



↑前日の異臭は夕立による増水で解消
 高校教師をして一度も生徒を眠らせたことのない谷先生。



カヌー練習・川下りの注意事項説明
 転覆したら、必ず舟の後ろ側に
 下流に向かってつかまってね。
 後ろ向きに流されちゃダメ！

10:00 途中休憩地点で、ライフジャケットを着けて流される体験

11:30 銭司休憩地点で生態観察指導、記念撮影、昼食



谷先生の野帳から：

st.2：銭司、午前 11 時 10 分で気温 33℃、水温 28℃

スジエビ・ミナミヌマエビ・モノサシトンボの成虫が多くいて産卵もしていた。

ハグロトンボ（幼虫と成虫）・コオニヤンマ（幼虫）・コヤマトンボ（幼虫）・

シオカラトンボ（幼虫と成虫）・アメンボ・ヒメアメンボ・カワヨシノボリを

確認。ミンミンゼミとアブラゼミが鳴いていた。

生物による水質判定は少し汚れ水になった。

15:00 木津泉大橋到着、カヌー引き上げ・水抜き・片付け、着替え、



終わりの会で感想（楽しかったこと、怖かったこと、水辺の楽校への要望）提出
書いてくれた人に、スイカを一切れずつ、食べてもらいました。

16:00 JR木津駅で解散

電車でこられた子供さんを、駅まで送って行きました。

松村さん、木津川河川敷に降りる鍵を閉めてしまってごめんなさい。

関川さん、忘れ物取りに行ってくださいってご苦労様でした。

3. 当日以降の活動報告と反省会

8月31日 参加した子どもたちの感想や水辺の楽校への要望などを笠置町教育委員会等へ提出

ピンク色：楽しかったこと

カヌーや、川流れが楽しかったという声が多い。

青色：怖かったこと

夕立が最多で、瀬の速い流れが怖かったというもの。

オレンジ色：水辺の楽校への要望

トイレをきれいにしてが多く、夕食はバーベキューとか、すいか割りも
水害をなくしてほしいという意識もできた？

9月19日 天井川が多い京田辺での治水や利水の意識を聞き込み

天井川は、昭和初期から撤廃が言われてきた。

下流へ延ばして付け替えは、下流の八幡と利害が対立し、

途中で木津川へ抜くポンプ場ができたそうです。

魚道の改善方法や設置箇所、笠置における川を知る活動の実際について、
笠置町の人と反省会

魚道は、魚の休む場が必要。

笠置の子供たちも、カヌーで遊泳禁止区域まで行って、

ライフジャケットを着けて岩から飛び込んだりしたそうです。

9月29日 スタッフの居住地域における治水・利水意識・親水度、紙芝居や魚道の改良点を含めて反省会。

関川さんから、今年のカヌー合宿について、率直な反省文が届いており、それを元に議論しました。

今年は、カヌー練習場と、キャンプ場・白砂川の間が閉鎖されており、上の道路橋を渡って行かねばならず、10分は移動時間がかかってしまいましたが、来夏には、水辺の楽校整備の一環として、笠置大橋下の白砂川合流点付近に飛び石が整備されて、歩いて行けるようになるそうです。

小林さんは、岐阜で行われた川に学ぶ体験活動協議会にも参加されて、各地の川の活動を見てこられました。子どもゆめ基金は、自主的な事業対象ですが、行政が関わって、地域的な川づくりをしているところがいろいろ紹介されていたそうです。



カヌー練習中に転覆してメガネを失くされたお子さんの親御さんから保険でできないか問い合わせがあり、傷害保険のみなのでできないとお断りしたが、今後、参加者にはめがねバンド等の持参を呼びかけようということになった。

11月10日 参加者を含めて笠置で、反省会

10:00～魚とり・水質・流速測定、12:00～昼食、

12:30～水泳体験の話（漁協の話に変更）

淀川大堰でも天然アユが遡上しているが、大半は琵琶湖で買って
義務放流、雑魚しか捕れない人から、入漁料が高いと苦情があるが、
漁協としては密漁を取り締まっても赤字だとのことでした。

13:00～魚道かけ、13:30～遡上観察、

水入れたペットボトルと巻尺で流速測定
30秒/10mで、およそ0.3m/s

鯉の背びれや、小魚の群れが見られた
が、捕まえることも写真撮影も×



15:00～後片付けと来年の計画

夕食は、参加料が高くなっても、キャンプ場近くの肉屋さんで食材と器材とが
提供されるバーベキューも検討しては、という案が出され、パンフレットを持
ち帰って検討することとした。

忘れ物については、スタッフに任せずに、参加者自身が、一緒に取りに行っ
てほしいとのことであった。

行事中の参加者の安全配慮や、天候など不意の事態に備えた対策はスタッフ
で立てておくべきであるが、基本的には、自己責任で水辺に近づく活動ができ
る子どもたちを育成することに、目標を置いていきたい。

子どもたちの目線に立った行事や、川づくりも、スタッフの学ぶ姿勢と共に、
子どもたちの自主性を育てていく視点が重要だと痛感した事業であった。

完

カヌー合宿参加者（申込者）の皆様へ

笠置で魚とりや魚道を楽しみながら反省会をしよう！

2007年11月10日（土）雨天時11日（日）

多数の皆様がご参加して下さったお陰で、NPO 流域調整室主催・河川環境理解のためのカヌー川下り合宿は、去る8月7～8日、楽しく無事に終えることができました。

ただ、7日の午後4時頃から強い夕立に見舞われ、楽しみにしていた魚とりができず、笠置で泳いだ経験のある人の話を聞くこともできませんでした。また、白砂川の魚道も、水に入っている人が多すぎてか、魚が上ってくるところを見ることはできませんでした。

スタッフで話し合った結果、上記の日程で、できなかった魚とりを中心とした行事を参加者の皆様とともに笠置で開催し、今年の反省と、来年の計画に役立てようという行事を企画することにしました。

次のような内容です。皆さんのお友達、ご家族お誘い合わせでご参加をお待ちしています。なお、参加料は傷害保険料100円／人のみご協力をお願いいたします。ライフジャケットを用意する都合上、人数（年齢でなくライフジャケットのサイズで大人・子供小・子供大）を教えて下さると幸いです。

10：00 笠置キャンプ場を降りて白砂川のところに集合、
受付、ライフジャケットを渡します。

～12：00 釣竿や網で魚とりをします。釣竿などは少々用意しますが、
ある人は持ってきて下さい。希望者は流速や水質の測定もします。
原則としてお弁当持参としますが、捕った魚は昼食の一品にします。
（駅からキャンプ場への通りにミートデリカヤマグチTEL
0743-95-2040 という肉屋さんがありお弁当も用意して下さいま
す。捕った魚を調理する道具とお茶と紙コップ等を少々のみ主催
者で用意します。現地でバーベキュー等される場合は時間が少な
いので下ごしらえして持参されることをお勧めします。）

～12：30 昼食

～13：00 木津川で泳いだ経験のある人の「危ないところ」のお話

～15：00 魚道をかけて魚が上るところを見よう。

魚道の入り口に土嚢を積んだり、午前中に生け捕りにした魚を
放してみたり、種類の違う魚道で試してみたり、

流速・水深や水質を測定してみたり。（作業はスタッフが行います。）

～16：00 後片付けと、来年のカヌー川下り合宿でやってほしいこと

お申込み：お問合せ NPO 法人流域調整室 電話 0774-27-2772、FAX 0774-68-0862

メール river-basin@gaia.eonet.ne.jp

